

武庫川臨床教育学会 ニュースレター

2022.1.10 No.12



第 16 回武庫川臨床教育学会研究大会のご案内(第 2 次)

本年度研究大会を 2022 年 2 月に開催いたします。積極的な研究発表とご参加をお願いします。

一昨年からのコロナ禍の中で、私たちの日常生活は大きな変化がございました。こうした変化は、それぞれの実践の場でどのような課題となっているのか、それは援助者に確かに認識されているのか、「コロナ禍の今と臨床教育学」（仮題）をテーマに、参加者のみなさんと共に考えていきたいと思えます。シンポジウム（1）では、テーマにそってパネラーからの報告を、シンポジウム（2）においては田中昌弥さんからコロナ禍でこそ子どもや当事者理解に求められる“ナラティブ・アプローチ”の意義をお話いただく予定です。

お誘いあわせの上、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

◆ **日時**：2022 年 2 月 20 日（日） 10:00～17:00（受付 9:30～）

◆ **会場**：武庫川女子大学教育研究所：I-306 教室など 対面とオンラインによるハイブリッド開催
会場での開催を基本としながらも、オンライン（zoom）による報告・参加も可能といたします。なお、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される場合は、オンラインのみでの開催に変更することもあります。2 月 13 日（日）にホームページで最終決定をお知らせします。

◆ **日程**

9:30	10:00	12:00	12:45	13:30	15:00	17:00
受付	自由研究発表	休憩	総会	シンポジウム（1）	シンポジウム（2）	

◆ **参加費**：会員、準会員、武庫川女子大学の学生・院生は無料。非会員は 1000 円。

※ 非会員の方は、参加費をゆうちょ銀行の振替口座（口座番号：00940-3-224555、加入者名：武庫川臨床教育学会）に「研究大会参加費」と備考欄に記入の上、参加申込〆切日までにご送金ください。

武庫川臨床教育学会
http://mukogawarinkyo.com/

〒663-8558
兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学教育研究所内

電話番号：0798(45)9866
メール：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

◆ シンポジウム

(1) パネルディスカッション「コロナ禍の今と臨床教育学」

問題提起：

- ① 村越 直子（武庫川女子大学）「コロナ禍の大学におけるダンス授業から考えさせられたこと」(仮)
- ② 渡邊 由之（東大阪大学） 「コロナ禍の若者・学生の今」(仮)

司会：木田 重果（『臨床教育学論集』編集委員長）

指定発言者：中村 又一、高橋 孝子、二羽 礼

※ 2名から問題提起を受けたあと、福祉現場と関わって中村さんから、教育現場と関わって高橋さんから、保育・教育現場との関りから二羽さんからご発言を頂き、関連会場の皆さんともカンファレンス的な討議を深めます。

(2) 講演「臨床教育学におけるナラティブ・アプローチの意義と課題」

田中 昌弥（日本臨床教育学会副会長 / 都留文科大学副学長）

◆ 自由研究発表の申し込み

- ① 発表時間は20分、質疑応答15分を予定しています。**発表申込の〆切は2022年1月31日（月）**です。E-mail：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp か、ファックス：0798-45-9866 でお申し込みください。申し込みの際、お名前（所属がある場合は所属名も）、発表のタイトル、発表の方法として「会場発表」か「オンライン発表」かを明記してください。
- ② 発表要旨の提出は2022年2月11日（金）が〆切です。発表要旨はA4サイズ2枚以内で作成し（タイトル・発表者名を最初に書き、PDFファイルにしたもの）提出してください。
E-mail: mukogawarinkyo@yahoo.co.jp 宛てに添付してお送りください。
- ③ 発表者には発表後のまとめの提出（1,200字程度。編集しますのでワードソフトで保存したもの）もお願いしています。〆切は2022年3月31日（木）とします。上記宛てに送信ください。

◆ 研究大会参加の方法について

- ① 事前参加申し込み制といたします。**2022年2月14日（月）までに、次のGoogleフォームにてお申し込みください。** <https://forms.gle/hG9aouiT5w6Eyswm6>

スマートフォン等で右のQRコードを読み込むと、フォームに直接アクセスします。 →

※ メール及びFAXでも申し込みは可能ですが、可能な限りGoogleフォームからお願い

します。メール：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp FAX：0798-45-9866

※ メール・FAXの方は、「会場参加」か「オンライン参加」かを明記してお送りください。



- ② 参加申込をいただいた方には、オンラインでの参加方法、発表要旨集録をお送りします。
- ③ 「会場参加」「会場発表」の方は、コロナウイルス感染防止のため次の点にご留意ください。
 - 1) 必ずマスク等による飛沫飛散防止をお願いします。
 - 2) 受付では必ずお名前、電話番号の記入をお願いします。また、検温をさせていただきます。恐れ入りますが、発熱などの症状がある場合は入場をお断りします。
 - 3) 建物入口や会場内にアルコール消毒の場を設けますので、手指の殺菌をお願いします。
 - 4) 会場内での発言は、挙手をした上でマイクを通じてお願いします。
 - 5) 借用している教室以外の場所やフロアへは立ち入らないでください。

※ その他、ご質問がありましたら メール：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp 宛てにお問い合わせください。

シリーズ：私と臨床教育学⑩

臨床教育学と私

高橋 孝子

6年前のことである。今までのキャリアを生かしながら学べる所はないかなあと漠然とネットを検索して出てきたのが、武庫川女子大学大学院の臨床教育学研究科であった。そこで初めて「臨床教育学」というものと出会ったわけであるが、私は「福祉」「心理」「教育」という言葉に飛びついた。

当時、中学校に勤務していたが、そこでやろうとしていたことが、まさに福祉、心理、教育の連携であった。その何年かあとに文科省が「チーム学校」を掲げたが、今にして思えば、その先駆けであったのかもしれない。不登校や非行、虐待などの生徒事案について、週に1日来校する臨床心理士や教職員と遅くまで対応を模索する中で、その多くが生徒の置かれている家庭での背景を何とかしなければ解決しないことに気付いた。そして、社会福祉協議会に介入してもらい、福祉、心理、教育の総力戦で、その生徒に向き合っていた。特に中学校を卒業した後の進路につなげることはもちろんだが、福祉につなげていくことの大切さを思い知らされた。その連携から、その生徒を学校が丸ごと受け入れ寄り添っていくことで、生徒の気持ちや置かれた状況が変化していくことも実感できた。

中学校をやめて今の職種になれば、定時に帰れて、大学院の授業に間に合うじゃないか！よし行こう！と決めたのは、夜中にネット検索してから3日後のことだった。臨床教育学とはどんな学問かも分からないまま、そして入学して間もないころは、私勘違いしてた？と思うこともあったりしての、何ともいい加減な「私と臨床教育学」の始まりである。

さて、大学院ではすべての講義がとても興味深く、学べることが本当に嬉しかった。特に「子どもと教師が紡ぐ多様なアイデンティティ」(D・ジーン・クランディニン著 田中昌弥訳)を読み解いていく授業が印象深い。教職員に対し自戒の念をこめて、保護者も含めありのままの生徒を見つめることを要求し、そして私は教職員の話をとことん聴くことを信条としたそのことと、通じるものがあるのではないかと感じたからだ。その頃から、おぼろげながら臨床教育学とは、現場での現象や実践とその中にいる人を丁寧にさらに丁寧に掘り下げ、意味づけしていくことではないかと思うようになった。私の中で霧中にあった臨床教育学が少しだけ姿を見せてくれた気がした。

そして先日、福島県浪江町の「なみえの小・中学校の記録誌」を読む機会があった。140年の歴史のある学校が一瞬の地震により原発事故が起き、一変した。子どもたちは無理やり地域から引き剥がされた。臨時休校のまま7年、そして生徒も戻らないまま全てが閉校となることが決まり、今年遺構として残した1校を除き小学校6校と中学校3校の校舎もすべて解体された。私は修士で、学校の歴史と地域の力が交差する時空の中に現在の学校があり、そのつながりの大きさや強さがその学校の学校力となるのではないかという研究をした。学校の歴史と地域が子どもたちを育てる大きな役割を担ってきたはずなのに、一瞬にして、そして真綿で首を絞められるようにして10年の時を経て跡形もなくなっていった学校の、そこにいた生徒、教師、地域は何を思ったのか。その一人一人の語りを聴きたいという衝動に駆られた。修士論文の続きを求められたような気がしたのである。

そのような作業を臨床教育学研究と捉えてよいのであれば、私はすでにナラティブ探究の世界に引き込まれているのかもしれない。まだまだ駆け出しであるが、学会の皆さまに導かれながら臨床教育学の広くて深い森を探検してみたいと思うこの頃である。

編集後記

▶新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。2月の武庫川臨床教育学会研究大会の第2次案内を送付いたします。今回は Google フォームによる申し込みを導入いたしました。参加確認とオンライン参加用 URL の発送をまちがいをなく行うために、是非、積極的ご活用をお願いします。▶今年「私と臨床教育学」で執筆された高橋さんの言葉にもありますが、臨床教育学の深くて広い森、まさに臨床教育学とは何かを改めて問う時期ではないかと考えています。その意味で大会の田中昌弥さんの講演はその問いに正面から答えていただくものになると思います。▶コロナ禍が続く中、コロナ禍の生活で失われたもの、考えさせられたもの、会員みなさまのくらしの現実から語りあいたいと思います。2月の大会で多くの会員の方とお会いすることを楽しみにしております。(文責 吉益)